

楽庵ニュース 第10号

2014年4月1日

発行元: NPO 法人茅ヶ崎ユニバーサルデザインスクエア

地域活動支援センター 楽庵

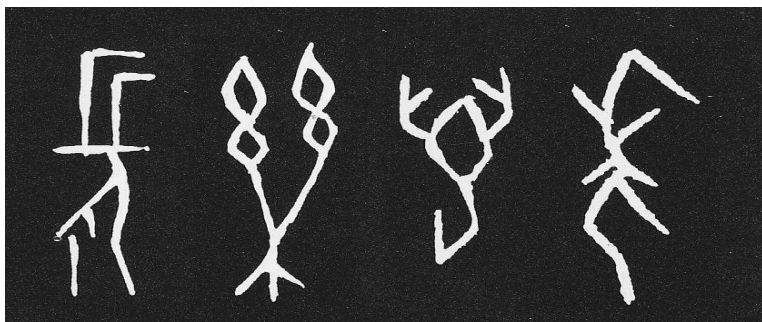
茅ヶ崎市浜竹3-4-64石黒ビル2F

TEL&FAX 0467-86-5898

ホームページ <http://park11.wakwak.com/~rakuan>

メールアドレス rakuan@aq.wakwak.com

* 長楽萬年(古代文字): 楽しいことの幾久しく限りないこと。



湘南 四季の花

春は、やはりサクラが一番でしょう。大庭城址公園もソメイヨシノが約630本いっせいに咲きそろう。 藤沢市大庭

昨年十一月二十日に夫、近

藤昭弘は静かに息を引き取り

ました。一月末に末期の癌と

診断されてから壮絶な闘病生

活をおくりました。湘南中央

病院緩和ケアに入院するまで

茅ヶ崎駅前クリニックの塚本

玲三先生、内山クリニックの

引野雅子先生、神奈川県癌セ

ンターの武宮省治先生には温

かい見守りを頂きました。特

に湘南中央病院の主治医片町

守男先生には臨

床の細やかさと

生命の尊厳の意

味を教えていた

頂きました。

仕事を越えたかけがえのない

関係や思いでがたくさんでき

ました。臨床とは死の床にあ

るトータルペイン(心の痛み、

体の痛み、社会的な痛み、魂

の痛み)に耳を傾けて向きあ

うことであると感じました。

かけがえのない家族の病気は

寂しく辛い事実で家族も同じ

痛みや苦しみを味わうことで

あると思いましたが、凍りつき

そうな毎日でしたが、楽庵の

皆さんの笑顔に癒されました。

夫は定年後茅ヶ崎市地域活

動支援センター楽庵の運営に

力を注いできました。今、夫

の遺志を次の世代に継ぐため

に心を引き締めています。事

業運営に設立当初から苦楽を

共にしてきた竹内嘉宏氏の豊

かな経験と新たに常勤に長年

システムエンジニアであると

同時に介護経験もあり後見人

制度を学習している高崎義裕

氏を迎えることがで

きました。施設長代

理として全面的な管

理をお願いしてあり

ます。基本的には、

春からの 事業展開

これまでの活動を踏襲してい

きますが、茅ヶ崎市の松浪地

区の地域活動支援センターと

して公益性、公共性、先駆性

のある事業として誠実に運営

してまいります。メンバーさ

んやご家族の要望に正直に応

えていけるように努力してま

いります。これからもご協力

ご支援を賜りますようお願い

い申し上げます。

施設長 近藤裕美

あなたと生きる瞬間

楽庵スタッフ

「あなたと生きる瞬間」

近藤 裕美

年々時間の感覚が変わり季

節の移り変わりも瞬間として感じることもある。楽しい時間はあつという間に過ぎるが苦しい時間は長く感じるものだ。偉人といわれる夏目漱石も自分にあつた仕事が見つからずつらい時間を過ごした一節が

「私の個人主義」にある。

「私は生まれ以上は何かしなげればならん。と言って何をしても見当がつかない。私は丁度霧の中に閉じ込められた孤独の人間のように立ちすくんでしまったのです。こうしてどこからか日光がさしてこな

いかしらんという希望よりもこつちから探照燈を用いて一条で好いから先まで明らかに見たいという気がしてきました。ところが不幸にしてどっちの方角を眺めてもぼんやりしているのです。曇ぼうつとしていのです。曇(ふくろ)のなかに詰められて出ることのできない人の様な気持ちがするので(略)人知れず陰鬱な日を送ったのであります。」

文豪漱石にも長い眠れない時間があつたのだ。つらい時間であつたとしても二度とない瞬間を大事にしたいと思う。ときおり漱石の著書に自分を映す。あなたとどう生きるかは自分次第とも思う。

「あなたと生きる瞬間」

海老名 倫子

最期の瞬間の父をひとり病床で見守った。前日、旅立ちの準備をするようにと看護師さんから連絡があつた。私の結婚



市民ふれあい祭り

「親と子の生き様」

竹内 嘉宏

私が24歳、父が57歳の時父は死んだ。父の年齢をはるかに超える73歳になって、私は一緒に生きた時を思ってみる。

娘時代父は「倫子は大丈夫」といつも言ってくれた。茅ヶ崎港に釣りに行く父の背中を見ながら自転車で追いかけたのを覚えている。10年前に楽庵を開設する決意をした父はイエズス会のフロレス神父様に会いに行つた。青山のスペイン料理のレストランで食事した。父はフロレス神父を大学時代から敬愛していた。父の横顔をまじまじと見て、老けて疲れているなと感じた。

今度は私が父を大事にしなればと思つた。父が他界した今改めて父の温かさや忍耐強さを思い出す。父のように私も強く生きていかなければと思う。父への尊敬と感謝を胸に生きていきたい。



第30回市民ふれあいまつり、が始まる。テントの数は99張、ステージ、模擬店、農業まつり、古本店ほか 茅ヶ崎中央公園 11月3日

図面を引くことが仕事であったので、本人も納得？の結果であったようだが、母は納得ができず、兄と一緒に会社に抗議に行った。

私から見ても、父は何の楽しみも趣味もなく、家族のために仕事だけの人生だったような気がする。酒とタバコを辞めれば、長生き出来たのではないかと、子は親が生きた標と言われる。父の為にも4人の優秀？

な男の子である私達兄弟は、世の中の役に立つ成果を残す必要がある。父の生きた証拠となる結果と成っているか？結果は私達と私達の子供らが協働して、示そう。

「あなたと生きる瞬間」

小橋 裕子

ふと耳にした聞き覚えのある音楽に、心を奪われる瞬間がある。当時の想いばかりか匂いや風までもが一瞬でよみがえり胸がきゅんとする。そんな時は「あ、音楽が好きで良かったな」って思うのだ。物心付い

た時からとにかくよくトイレで歌っていた。母が料理しながら大声で唄を唄っては自画自

賛する人だったのでその影響かもしれない。高校から大学までは一貫校だったので、類が呼



恒例のXマス会で、ビンゴ大会 ライブ演奏を楽しむ =茅ヶ崎市浜竹 辻庵にて 12月20日

んだ友たちと学食でハモリのパート別けをしては歌い、バスや電車の中でも堂々とハモっていたものだ。コンサートも和から洋まで駆けずり回り、仲間皆で学祭の実行委員を買って出て好きなバンドを呼んでイベントをしたり、好きなグループのファンクラブの会長とかまでやったり・・・結婚し子供が生まれても当然子守唄はサザンやロックだったり、常に音楽が私のそばにあった。そこから月日は流れ、今は聞く側から演る側へと、ウクレレやギターで仲間たちと遊んでいる。さて、その先は・・・

「星野富弘さんと出会った瞬間」

田辺 和男

私が35歳の時、だるさと微熱が2、3か月続き体調が悪い時があった。かかりつけの病院へ行くと、医者から「大学病院を紹介するからすぐに診てもらいなさい。」と言われた。

早速大学病院で診てもらったら、命にかかわる状態なのですく

に入院となった。その時、私は1週間ぐらいで退院できるであらうと安易に考えていた。1か月たつてもいっこうに良くなるはず、絶対安静の入院生活が3か月ばかり続いた。患者同士で病気の情報交換をしたり医学書を読んだりした結果、自分の病気は当時の医学では根本的な治療法がないということが分かった。週に1回の血液検査の結果も、悪い状態が続きだんだん落ち込んでいった。頭の



ボランティアまつり福祉バザー 市民文化会館 11月23日

中では、「どうして自分がこんな病気になったのだろう。どうして治療法が見つからないのだろう。」ということばかり考えていた。発狂寸前まで追い込まれた状態の自分がそこにはいた。ある時、星野富弘さんが書いた「風の旅」という詩画集を読んだ。本の中のある個所が心の中にスーと入ってきた。

「星野さんが小学生の頃、友達と渡良瀬川に泳ぎに行っていた。その日は、増水して流れも速かった。岸のそばの浅い



12月はクリスマス。
ハンドベルを演奏する参加者
茅ヶ崎駅前街頭キャンペーン

所で気をつけて泳いでいたが、速い流れに川の中央に持っていかれた。元の岸に戻ろうと必死になって手足をバタつかせたが、川は恐ろしいほどの速さで星野さんを水の中に引き込んだ。水に流されて死んだ子供の話が頭の中をかすめた。しかし、同時に頭の中に閃いたものがあった。それは、確かに私が溺れかかっている所は私の背より深い、この流れのままに流されていけば必ず浅い所に行くはずだ。そうだ！何も元の岸に戻らなくてもいいじゃないか。星野さんは、流れに任せて今度は下流に泳ぎ始めた。下流にしばらく流され、足で川底を探ってみると何のことはない、簡単に立てる深さの所だった。」

今まで自分は「どうしてこんな病気になってしまったんだろう。どうして治らないのだろう。」ということばかりにとらわれていたが、元に戻らなくてもいいのだ、どんな状態でも今



茅ヶ崎寒川障害者作品展
＝イオン茅ヶ崎店1階 9月9日

できる一番良いことをすればいいんだという事に気が付いた。星野さんと出会った時から、私の療養生活は心穏やかな日々になった。その時は悪い事のように見える事も、月日が経つとその人の成長につながる事もあるという事を、星野富弘さんから学ぶことが出来た。

星野富弘さんの紹介

群馬県の中学校に体育教師として赴任中、クラブ活動の模範演技で宙返りに失敗し頭部から墜落、首から下が麻痺し手足の自由を失う。9年間の病院生活の後、不治のまま退院。現在、自宅で電動車椅子を使いながら詩画活動を行う。

メンバーの広場

「田代さんへ」

山口 開生

私は、きのう全然眠れませんでした。田代さんが今日右目の手術をすることを17日の月曜日に聞いて、心配で眠れませんでした。田代さん早く元気に戻って来てください。手術の成功をお祈りいたします。田代さんは明るい人でいつも話し相手になってくれます。陶芸の作業のときに皿の形が上手く行かないと悩んでいると田代さんは「何回も挑戦したらうまくできるよ」と言ってくれます。畑の作業に行ったときは田代さんは近くを散歩しています。私は草むしりや土運びをしています。朝の体操のとき、田代さんは両側飛びを屈伸運動に替えて皆と一緒に運動します。「無理だ、無理だ」と言いながら、

不自由な脚でがんばっている田代さんを見るとうれいします。手術が無事に終わったら田代さんには私ができることを少しずつ数えてほしいと思います。早く戻って来てほしいと思います。

辻堂の街探訪・食堂編

大城 祐一 柴田 朗宏

今回は、楽庵から徒歩二分という好立地（辻堂駅南口東）にある「すもも食堂」へ繰り出した。店内は、ほの暗くとても落ち着く雰囲気があり、店員も明るく居心地が良かった。「辻堂おすすめ食堂」という雑誌の特集にも五つ星に輝いていた通りである。

メニューとしては、豚キムチ丼、納豆丼、刺身定食等、一見すると若者向けのメニューが並んでいた。盛り付けも多めで、カウンター席もあり、仕事帰りや買い物のにふらっと立ち寄るには調度良い店で、もちろんテーブル席もあり、落ち着いて食事をとる事も出来る。楽庵に「周辺の店案内」を置いて、今後とも美味しい店の情報提供をしていくので、お楽しみに・

楽庵の活動

パソコンや陶芸や手芸に加えて園芸活動も始まりました。だれもが障害を感じなくてすむ環境や制度を作るユニバーサルデザインの考え方のもとで楽庵は活動しています。

ひとりひとり病前の生活や教育的背景が違うメンバーがともに一日を過ごしています。病前に比べて知的機能運動機能の低下により生活に不自由を感じているメンバーがひとりの落伍者も出さないうで過ごせるように配慮しています。

「パソコンとバドミントン」

高崎 義裕



Lkit-16: 国内初の1チップ16ビットマイクロコンピュータ(1975)、2010年に情報処理技術遺産に認定

私の趣味の1つはパソコンです。まだパソコンという言葉は無く、マイコンと称していた時代から、基盤に電子パーツをハンダ付けして組立てたLkit-16をはじめに、20台を利用してきましたが、まだWINDOWS 8は未知の世界です。今後のテーマとしては福祉への電子機器の応用を考えています。

もうひとつの趣味はバドミントンです。それまでお正月の西洋羽子板としての意識しかなかったのですが、31歳のとき、あるきっかけでその楽しさを覚え、かつ、リタイア後の企業人の地元でのコミュニティ作りと考え、自治会のバドミントン部発足に参画し、現在は松林地区のバドミントンクラブの横のつながりとしての同好会会長として、自治会対抗試合・交流試合・中学校ふれあい講座での指導等に務めています。これは自分自身の健康法ともなっています。いろいろな意味で社会に関わっているなという実感です。

心理学者フロイドは死ぬほどの困難があったとき働く場と愛する人がいれば救われると言います。楽庵においてはだれかのために汗を流し共感し働くことを通して生きがいを見出し出ていくメンバーの関わりが多く認められています。メンバー主体の活動を通して当事者の思いを自分の思いとして受け止めて日常に生かしていきたいと思えます。

集団の安全を守りそれと同じように「もつとも大きなニーズ」をもったメンバーにあわせて活動することを目指しています。障害者の平均や標準に合わせるのではなくひとりひとりの自己定義権と自己決定権を大事にしたいと考えています。茅ヶ崎市障害者作業所連絡会主催の作品展や市民ふれあい祭りへの出店やクリスマス会などの行事を通して地域への関わりを広げ集団参加への動機を深めています。

一月九日に共同募金からの助成をもとに観光バスで沼津のミカン園を訪問しました。呉慎次郎さん衣久子さんが精魂こめて開墾したミカン園は駿河湾に面して富士山の景観が最も美しい土地です。当日は雨が降り富士山は眺められませんが三津浜のシーパラダイスを見学して、トドやイルカやセイウチなどの海の動物のショーを見学しました。煌きの丘で沼津市井田の全景を眺め公民館でご子息の竜介君のギターの演奏を楽しみました。手作りの梅酒を嗜みほんのちよつと顔を赤くしながら衣久子さんご自慢のケ

ーキとコーヒーをいただきました。呉さんご夫妻の愛情に支えられた無償の行動は地域の方がかりではなく冊子による広報活動で多くの方に知られています。ゆつたりした自然や村人の優しい笑顔に癒されました。呉さんご夫妻のご好意に感謝申し上げます。三月一四日にはお昼にピザを焼いて畑で採れた新鮮な小松菜の入ったスムージーで食事会をしました。畑で採れた野菜をみんなで調理する試みはこれからも継続していきたくて考えています。



楽庵農園みかん狩り沼津市井田
1月9日

この人 施設長代理
高崎 義裕 さん

団塊の世代・学生時代

当初、考古学を意識した文系の学部への入学を考えていたのですが、旺文社付録の適性検



査の結果、理系の物理学科にもぐり込みました。地球を磁石に見立てた宇宙空間の磁場の研究をしていましたが70年安保の時代、折も折、大学構内に米軍機が墜落し、学生運動の派閥争い（クラスメイトが内ゲバで失明）を収め、ストライキなど全学あげての米軍への抗議

活動の

結果、板付基地を撤去する事が出来まし

のは年を取ったせいでしょうか。

社会人・福祉の世界へ

卒業研究の為独学利用した計算機に魅かれ、「計算機をやらせてくれなければ、入りません」と強気の態度で入社した石油精製業で、事務処理・製油所自動化・線形計画法による最適操業計画等のシステム管理で35年間勤め上げたのち、「機械から人間相手へ」と、高齢者デイサービスの立ち上げから11年間、介護業務（送迎・体操・入浴介助・話相手・レク提供・請求事務・組織運営）に携わってきました。

デイサービスの後輩も育ち、次のステージを考えるにあたり、独居高齢者のお世話をしている中で、「昔前の大家族制度では、家族や親類ひいてはご近所が意識することなくお年寄りや幼児のお世話をしてきたのに・・・」という思いが募り、将来世話を受ける立場として、自分が安心して生活ができるようにする為には、第三者の活動による相談援助の制度化が必要と感じました。その一環として自分にできそうなのは市民後見人だと思い立ちました。

振り返ると、9年前、疎遠であった生涯独身の叔母の為に、実質的に後見人の仕事をしていました。（後見人申立て手続中に叔母が急逝）その後、東京大学の市民後見人養成講座を履修し、学習の一環として、茅ヶ崎市成年後見支援センターを訪問した際に社会福祉士の学習を進められ、その学習の中で考えの甘さを自覚しました。

障害者福祉へ

これまで高齢者の事のみ考えていて、障害者の事はあまり具体的ではありませんでした。一方、茅ヶ崎市の市民後見人活用の体制も遅々として進まず、そんな折、デイサービスと一緒に働いていた田邊さんから「楽庵」勤務のお誘いがあり、まずは見学からと訪れた際、パソコンがずらりと並び、メンバーさんが取り組んでいる姿に近年にないワクワク感を覚え、お手伝いをしながら、勉強させていただきました。当面は運営管理の把握と、若い人たちに繋ぐための標準化を主体に考えています。これは



システムエンジニアの業務（問題の分析・整理・統合・合理化・標準化）とも相通じるところがありません。残念ながら、前代表とお話しする機会が得られなかったのですが、残された書類等から少しずつ教示を受けています。（楽庵にて）

編集後記

今だから言えることはあると思います。その瞬間をスタツフに書いてもらいました。

良寛さまの書には数字を「ひふみ」と書いて「人含道」と漢文で説明をしています。数を民衆に教えるときに意味を付したようです。数字処理は規則正しいようですがやはり哲学的課題なのかと感じます。同じ時間を共有しながらひとりひとり与えられている時間の重みは違います。これからも時間を大切に生きていたいと思います。

近藤 裕美



写真：茂木 春樹